



「Base Hope」

〔大阪府〕

大阪市立北稜中学校 3年 飯田 理人

僕の家は決してお金持ちではない。しかし、それでも僕は恵まれている、と言い切れるには理由がある。

それは14歳の春、「空飛ぶ車いす活動」でベトナムの都市ホーチミンを訪れた時のことだった。「貧困」という言葉の本当の意味を、僕は痛感した。「空飛ぶ車いす活動」というのは、日本で使われなくなった車いすを工業高校が分解・整備・再生し、アジア諸国で必要としている方へ届けるというボランティア活動だ。参加した動機は、毎日学校と野球の練習で疲れていたのも、気分転換にという漠然としたものだった。

ホーチミンの中心部は、新しい建物が並んでおり、車やバイクが行き交うとても活気がある街だった。ところが、1つ裏通りに入ると、景色がガラッと変わった。古びた服を着た素足の子供や、白髪のお年寄りが地面に座っていた。道も舗装されておらず、歩みにくい。あまりの風景の落差に驚いていると、突然「マネー」と声をかけられた。振り返ると、まだ7歳ぐらいの女の子が、小さな赤ちゃんを抱きながら手を前にし、お金をねだってきたのだ。怖くて走り去ろうとした僕は、一瞬その子と目が合った。ひどく悲しく、やるせない気持ちになった。

ベトナムは経済発展の段階にあり、物価が高騰してきている。そのため、物価上昇についていけず、貧困状態に陥る人も多い。高収入を得ようにも、教育が不十分。学べる機会に恵まれたとしても、それを活かす産業がない。

あまりにも問題が大きすぎる。個人にできることなんてあるの

だろうか。野球しかやってこなかった僕にできることなんて、なおさら無いだろう。

野球？ そうだ。「空飛ぶ車いす活動」、あれを普段使っているグローブにも適用できないだろうか。もともとグローブは衝撃に強く、耐久性が高い。メンテナンスさえすればいつまでも使い続けることが可能だ。ものによっては1つ数万円以上する、高級品である。調べてみると、ベトナムでは2022年から野球選手権が開催されているらしい。野球というスポーツが、これから広がっていくと思う。

アイデアはこうだ。部活動で不要になったグローブの寄付を日本各地に呼びかける。修理は協力してくれる団体にお願ひし、それらをベトナムに寄付する。ベトナムで役目を終えたグローブは、財布としてアップサイクルが可能だ。ひょっとすると靴も作れるかもしれない。僕が独自の革産業を発展させるための起点となり、その日暮らしの人々を少しでも笑顔にする未来があるのではないか。

野球を通してベトナムと文化交流を行い、使った道具は廃棄するのではなく、産業として活用する。これで本当にベトナムの貧困問題が解決できるかといえば分からない。ただ、野球が盛りあがり、いつか日本とベトナムで試合が出来るかと考えるとわくわくする。そして、僕もいつか自分のグローブを財布にして、得たお金をあの時の女の子に渡したいと思う。